

1. 2 改築更新 (1) 施設老朽化の 現状

本市の管きょ施設は、昭和 27 年に
工事着手し、現在の総延長は約 256km
である。

管きょの標準的耐用年数は 50 年
であるため、昭和 27 年に布設した管き
ょは平成 14 年には布設から 50 年が
経過しており、既に更新時期を迎え
ている。

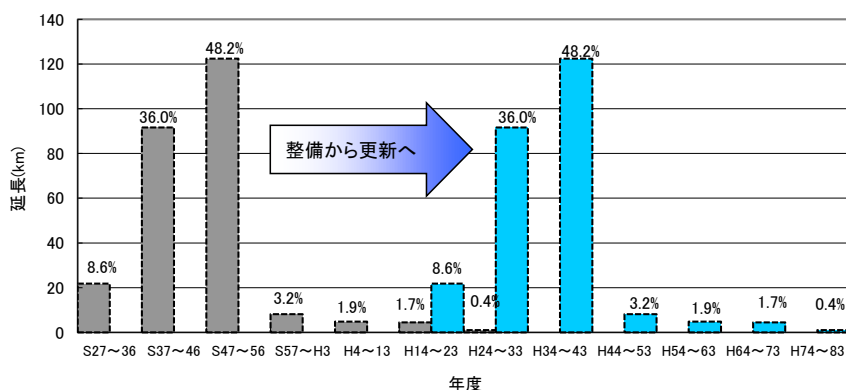
更新を必要とする管きょは今後さらに増加し、一斉にピークを迎
える。

管きょの更新には多額の事業費を要するが、近年の社会情勢等を
考慮すると、その財源確保は厳しい状況にある。

そのような中で、本市内の管きょの状況を調査し、長寿命化計画
策定に関する検討を行ったところ、たるみ等の損傷は少なかったた
め、更新ではなく、更生工法や予防保全型維持管理に基づく修繕等
を実施すれば、管きょ施設の延命化が可能であり、事業費の大幅な
圧縮も可能となることがわかった。また、下水道施設全体を一体的
に捉え、計画的な点検・調査及び修繕・改築を行うことにより持続
的な下水道機能の確保とライフサイクルマネジメントの低減を図
ることを目的としたストックマネジメント計画の策定作業を現在
進めている。



鉄筋が露出する老朽管内の様子

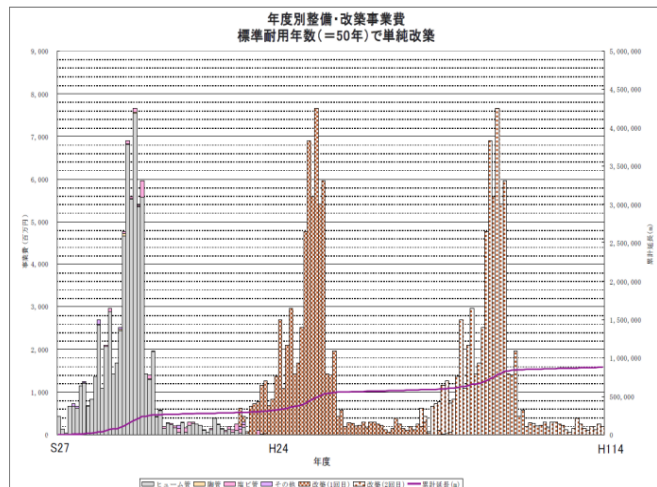


管きょの布設年度別整備延長と割合

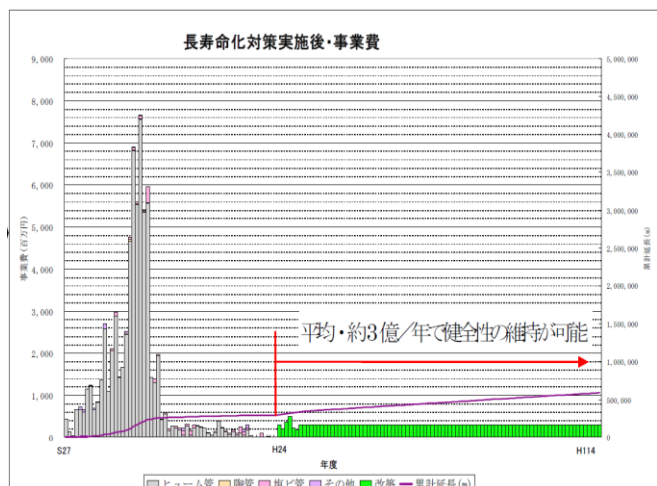
(2) 今後の課題

1) スtockマネジメント計画に基づく老朽管きよの改築更新

本市では、平成31年度に武蔵野市下水道ストックマネジメント計画を策定予定であり、本計画により従来の対症療法的な手法から予防保全型の維持管理へ転換し事業費を圧縮させることが可能となる。今後は武蔵野市下水道ストックマネジメント計画に基づき着実な再構築を行う必要がある。



対症療法型の投資額



予防保全型の投資額

用語: